



NO. 590
発行
07 1月15日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
守橋久仁雄
編集責任者
教宣部

冥福を祈い献花

死者五人、負傷者三十三人を出した『いなほ脱線事故』から一年となる十二月二十五日、庄内町で慰霊式が催されました。この日、国労は中央本部・佐藤委員長はじめ、東日本本部・伊藤委員長、他代表五名が現地を訪れ、犠牲者の冥福を祈り献花をしました。



2006.12.25



2006.12.25

庄内町文化創造館で追悼慰霊式開催

追悼慰霊式は、十二月二十五日に庄内町文化創造館・響ホールで十五時から開催されました。会場は関係者などを含め四百名以上の方々が出席、国交省大臣、山形県や各関係自治体、山形県警、消防署、病院など代表の方も出席していました。

風対策に百億円を投入した

事故調査が事故発生から五日後に原因は、横風とほぼ断定したことからJR東日本は風速計や防風柵の増設など、この一年で総額百億円を風対策に投入しました。強風が予測される越後線・新潟〜白山間の信濃川橋梁など管内四カ所に『強風警報システム』を導入。また、余目駅に局地的な突風観測に役立つとされるドップラーレーダー設置を明らかにしました。

再発防止を

マスコミは再発防止の立場から一斉特集を組み『風速計だけでなく気象情報も活用していれば』『事前に防風柵があれば…。減速していれば…』と遺族の無念を伝えていきます。また県警捜査本部からも、当日、徐行など規制処置が取られていなかったことから強風対策に問題はなかったか『自然災害の側面だけでなく事故を予測し、安全を確保する責任』をJRに求める指摘もあります。

どう向き合うべきか



2006.12.25

★『鉄道輸送の安全』について労働組合としてどのように向き合うべきか、悲惨な事故から一周年を契機にあらためて問われている。

★地方本部は、昨年11月に公共交通の安全を考える集会を開催し規制緩和と安全・安定輸送との関わりなどについてダンプ・タクシーや港湾

の仲間と共に学習し合った。この場でも輸送の安全をきちんとチェックし、改善提起できるものは、現場労働者であることも確認してきたところである。つまり現状と問題点を把握できる立場にあるということである。国労が提起している仕事・職場総点検運動の原点でもある。

★いなほ事故が強風に起因しているとはいえ、『仕方の無いこと』と済ますわけにはいかない。鉄道の提供するサービスには利便性・速達性があるが、最大のサービスは安全性である。この点で鉄道のサービスは新薬の開発に似ている。如何に良く利く薬を開発したところで、安全性が担保され

ていなければ、何もならないからだ。このことを、JRの経営陣は肝に銘ずるべきだろう。★昨年12月20日、福知山線事故の『事故調査に関する報告書の案』が航空・鉄道事故調査委員会から発表され、企業体質に言及している。要はコスト削減・効率化優先のもとで労働条件含めた労働環境全体が安全・安心を担保できるようになっているかどうかであろう。★地方本部は、いなほ事故以来、解明要求含めて重要な問題点を提起してきたが、未だに明らかにされていない。真摯に向き合う姿があつてしかるべきである。『命を運ぶ企業として信頼される会社』つまり『安全・安心な鉄道』をつくるためには、労働組合が、そのチェック機能を十分に発揮することと、会社がそれらの声に謙虚に耳を傾けることが大前提なのである。

輸送障害が多発

マスコミが指摘しています。昨年十一月の朝日新聞・夕刊には「鉄道ダイヤの乱れが年々ひどくなっている。二〇〇五年度に起きた列車運休や三十



分以上の遅れ(輸送障害)は五千二百一件でJRが発足した一九八七年度以降で最悪を更新した。時刻表が複雑・過密化して乱れやすくなったことを加え、鉄道各社の過度のコストダウンが原因との指摘もある。ダイヤが乱れた結果起きる事故も絶えず、専門家は「障害の自身を分析し、対策をもっと練るべきだ」と警告する。とありました。

2005年度の輸送障害件数

JRグループ	発生件数	
	(うち部内原因)	列車走行百万キロあたり
JR西日本	1239 (339)	7.49 (2.05)
JR東日本	1389 (556)	6.03 (2.41)
JR東海	232 (66)	4.93 (1.40)
JR北海道	350 (151)	8.99 (3.88)
JR四国	53 (16)	2.46 (0.74)
JR九州	242 (92)	3.71 (1.41)
JR貨物	365 (220)	4.90 (2.96)

当面の日程

- ★中越・直江津支部旗開き〜一月十二日(金)
- ★新潟・酒田支部旗開き〜一月十三日(土)
- ★第七十七回拡大中央委員会〜一月二十七日・交通ビル
- ★新潟貨物協 定期委員会〜二月三日(土)
- ★第二十四回エリア本部拡大委員会〜二月四日(日)



編集後記

十二月二十五日は素晴らしい天気です。十二月二十五日は素晴らしい天気で雲ひとつ無い快晴でした。この素晴らしい写真は鳥海山です。地元の人でもなかなか見ることができないらしいです。



追悼慰霊式には本部・佐藤委員長・東日本本部・伊藤委員長が出席しました。この準備では地元、酒田支部のみならずから御協力いただきました。ごくろうさまでした。

いろいろな課題を抱えて二〇〇七年がスタートしました。今年もさまざまな運動を取り組んで、せいじつぱいがんばりましょう。『イノシシ年』ですから突っ走る・猛進する年になるでしょうか？


